

令和4年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名：富山福祉短期大学

代表学生：久保田 彩心

指導教員：藤井 徳子

<p>研究題目 (応募部門)</p>	<p>地域資源竹材を用いた自然体験型教育プログラム開発と地域づくり</p>
<p>研究概要</p>	<p>砺波市梅檀野では、少子高齢化による過疎化や生活様式の変化に伴い、放置竹林が課題となっている。<u>放置竹林は生物多様性の低下や景観の劣化をもたらすため、新たな利活用が求められている。</u>また2020年3月に閉園となった梅檀野幼稚園を、人口減少が進む地区のにぎわい創出に活用しようと「せんだんのHILL」として再整備したところで、コミュニティガーデンづくりや親子の自然観察会など、学生たちも参画した取り組みが始まり、地域からも大きな期待が寄せられている。そこで本研究では、地域の竹材を利用した自然体験型教育プログラムを開発・実施し、<u>子どもたちの豊かな自然体験と地域づくりが繋がるような仕組みを創り出したい</u>と考える。</p>
<p>これまでの活動状況と今後の活動予定 (300字程度)</p>	<p>梅檀野地域活性化協議会で会合を開き、放置竹林の現状や課題について聞き取り調査を行った。実際に自分たちで地域の竹林から竹を伐採し、地域イベントで4月竹ぽっくり屋さん、6月竹流しそうめんなど、親子自然体験活動を実施するとともに、竹に関する意識調査も行った。Instagramで本事業の情報発信も開始した。</p> <p>8月には、せんだんのHILLの夏祭りに地域の竹を使った巨大竹ブランコの企画をしたり、長年竹の有効活用に取り組んでいる中越パルプ工業の担当者と面談させていただいたりして、竹林問題について自分ごととして動くことの大切さを実感することができた。</p> <p>また竹林課題についての啓発バナーを作成し、9/18全国竹灯りイベント「みんなの想火 in 砺波」で展示するとともに、ステージインタビューとグラフィックレコーディングを行い、竹林問題や竹の魅力を「見える化」して来場者に伝えることができた。</p> <p>今後は秋の親子自然観察会や、小学生との自然体験型交流事業を予定している。</p>



4月梅檀野地域の竹を地域の方と一緒に伐採



4月せんだんのHILL1周年記念祭にて「竹ぼっくり屋さん」出店



6月親子自然観察会「里山さんぽ」にて、竹流しそうめんを実施